

講演 2 王子動物園におけるジャイアントパンダ飼育のあゆみ

神戸市立王子動物園 専門員 奥乃 弘一郎

王子動物園のジャイアントパンダは、平成 12(2000)年 7 月 13 日に中国四川省の臥龍自然保護区にある中国保護大熊猫研究中心を出発し、16 日に到着しました。臥龍は現在の生息地である 6 山地の一つ邛崃チョンライに位置します。化石から古くは中国全土に分布し、時代と場所を書いた文献から分布の縮小が判ります。臥龍研修の際、竹林に戻しつつあった山の段々畑を見たとき、人々の営みがパンダに及ぼした影響を痛感しました。

なぜ、神戸に「旦旦」「興興」が来たのか。中国天津市との友好動物交流、キンシコウ日中共同研究の成果、何よりの決め手は阪神淡路大震災で傷ついた人々を元気づけるという友好の証でした。

ジャイアントパンダ日中共同研究では、中国側との人的交流も多々あり、相互理解のもと友好交流も深めています。竹の供給は神戸市北区淡河オウゴ自治協議会が担い、繁殖研究では神戸大学農学部動物多様性教室が支援します。室内外の運動場を備えたパンダ館。竹中心の 1 日 6 回の食事。健康管理と繁殖研究のため、採餌量、体重、糞尿そして 24 時間ビデオ録画を解析して行動を日々調査します。繁殖研究では、雌雄の相性が合わず、排卵日予測－採精－人工授精を進めました。オスの交換、死産、新生仔の死亡、オスの誤嚥窒息死があり、現在オスの補充待ちで、馴致トレーニングに取り組んでいます。実現できたらいいなと思う繁殖技術、例えばトレーニングを活用した無麻酔の人工授精やエコー妊娠診断、気の強いメスに勝つペアリング法、近赤外分光法の迅速ホルモン測定により、繁殖の成功は今以上に確実なものとなるでしょう。

ジャイアントパンダは、希少動物を保護するため、そして中国からの友好親善大使として神戸に来ました。入園者の増加や人気の高さ。関心の強さによる教育効果。生息地の内外で種の保存を図り、職員の意欲や技術水準を向上させた共同研究。パンダほど動物園の役割を果たすために貢献してくれる動物はいないと実感しました。今後とも、希少動物の保護と友好交流を両輪に、二世誕生を心待ちにしている市民の皆さんへ明るいニュースを届けたいと思っています。